

# 安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 323 2023年7月12日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

## 駐輪場を増やし、市民に利用しやすいように

6月26日 総務委員会 太田秀子委員

市内の路上駐輪場が整備されている箇所では、歩道幅が非常に狭くなっている箇所もあるという問題を受けて太田市議が質問に立ちました。

同市議は最初に「今後の路上駐輪場の整備の考え方について何う」と質問。市の担当者は「公共駐輪場の整備に当たっては、駐輪場用地を取得することが望ましい。しかし、用地の確保には時間や費用を要するため、様々な手法を用いて、駐輪場の確保を目指す。今後も駐輪場の整備とあわせて、既存の路上駐輪場の縮小や廃止も含めた検討を行うなど、需要に応じた適正な駐輪容量の確保に努めてまいりたい」と前向きな答弁でした。

続けて同市議は「ルールやマナーについて伺いますが計画書（札幌市自転車利用総合計画）の中には、自転車のルールマナーについてのアンケート結果が載っていました。（アンケートについて）深掘りした上で市民意見に沿った対策を実施していくべきだと考えるのがいかがか」と質問。市の担当者は「市民へのアンケート調査の結果を踏まえ、施策に反映することは重要と認識している。今後も引き続き、市民意見をしっかりと踏まえながら、矢羽根型路面標示の整備などの自転車利用環境の整備や、自転車利用者へのルールマナーの啓発活動などに取り組んでまいりたい」と継続して取り組むと答弁しました。

最後に同市議は「利便性ということ言えば、駐輪場があちこちにある方が市民にとっては使いやすい。自転車利用の啓発活動というのは大事なことであり、持続的に実施することが重要」と求めました。

## 真駒内駅前 市有地として残すべき

6月26日 総務委員会 太田秀子委員

札幌市は、真駒内駅周辺を交通結節点と捉え、区の拠点としての役割を担う地域として『地域交流拠点』に位置付け、多様な都市機能の集積、快適な歩行空間の創出等を図るとしています。そのうち、地下鉄駅前にあるA街区には民間企業が参加するとして、太田市議が質問に立ちました。

同市議は最初に「冬期間も含めた交流広場の活用、維持管理についてどのように考えているのか」と端的に質問。市の担当者は「広場の活用や維持管理の方法については、持続的な賑わいが創出され、通年で活用できる空間の整備を目指し、冬季の対応も含めて検討していく。A街区に導入される民間施設との一体的な活用も想定しており、まち作りに参画する民間事業者とも連携を視野に考えている」と民間企業も参加する取り組みであると答弁。重ねて同市議は「その民間の事業所の撤退や廃業なども起こりうる。やはり土地は市有地として維持し、市有地は市民の財産ですから、将来を見据えて、市有地として維持していくことが重要と考えている。A街区の民間活用の方法について、本市の見解を」と質問。市の担当者は「計画策定後は、市有地を売却または借地する場合の扱いも含め、公募要件を整理するなど、計画を踏まえた民間活用の方法について、事業性を初めとした様々な観点から検討を進める」と売却は定まっておらず、要件定義の段階だと答弁しました。

最後に同市議は「この計画は15年かかると言われている。（将来に渡って良いサービスを提供するという意味で）やはり市有地として残しておくということがとても大事なことになる」と重ねて求めました。